

現代経営学応用研究 社会実装のための価値設計

講義担当講師：忽那憲治、佐藤正和、安川幸男、坂井貴行、熊野正樹、
寺田有美子、山本一彦、上田浩史

講義テーマ

イノベーション創出や価値創造のために求められるアントレプレナーシップ（企業家精神や企業家活動）に関する基礎理論を学習する。国連が定めるSDGs（持続可能な開発目標）の17のゴールの実現を視野に入れ、価値創造のために知識や技術を社会実装するために何が必要となるかの基礎知識を修得する。

講義の到達目標

イノベーション創出や価値創造のためのアントレプレナーシップの理論を学習し、事業戦略への落とし込みのために必要となるヒト・モノ・カネの各戦略の設計ができる力を習得する。

講義プログラム

第1回 価値設計のための戦略構築のフレームワーク（担当：忽那憲治）

7月4日(火)5限

イノベーション創出や価値創造のために求められるアントレプレナーシップ（企業家精神や企業家活動）に関する基礎理論を学習する。単なる座学としての知識の習得にとどまらず、国連が定めるSDGs（持続可能な開発目標）の17のゴールの実現を視野に入れ、バックキャストでイノベーションアイデアを構想し、知識や技術を社会実装するために何が必要となるかの基礎知識を修得する。

第2回 ビジネスモデルの設計（担当：佐藤正和）

7月4日(火)6限

アイデアを収益化し持続可能なものへと実装する方法（ビジネスモデル設計）を基礎概念から学ぶ。顧客のニーズが多様化し急速に変化する現代においては過去の成功事例や一つの理論を単純に当てはめるだけでは不十分なケースも多く、持続可能な組織とするためには複数の理論に基づき連鎖的にイノベーションを起こす必要がある。また既存事業を深掘るケース（深化）と新規事業のケース

(探索)を同時に行う場合は同じ組織であっても思考や進め方が異なるため複数のビジネスモデルが共存することも多い。アイデアを正しく社会実装するために必要となるビジネスモデルの活用上の視点や留意点を習得する。

第3回 アイデアの創発とマインドセット (担当：安川幸男)

7月11日(火)5限

不確実で予測不能な VUCA 時代に求められるのは「正解を出す」能力や「役に立つ」という価値ではなく、いまここにはない世界を想像し自らの内的衝動によって「意味を創出する」力であり、感性や共感力を持ってストーリーを紡いでいく主観的な構想力である。そのために必要となる「創造性の土壌」を耕すために、リベラルアーツの活用や哲学的対話を通じて、社会や事業と向き合うためのマインドセット変容とアイデアの発芽を促す創発ワークショップを主体に実践的な講義を展開する。

第4回 大学の研究シーズの活用による価値設計 (坂井貴行)

7月11日(火)6限

イノベーション創出や価値創造に有効な大学の研究シーズの活用による価値設計手法について学習する。産学連携や技術移転に関する基礎知識の習得だけでなく、ケーススタディやロールプレイングなどをおして、大学の研究シーズの発掘から新しい製品・サービスを生み出すプロセスを修得することにより、大学の研究シーズからビジネスを創り出す人材を目指す。

第5回 ビジネスモデルの設計の実践 (担当：熊野正樹)

7月18日(火)5限

社会実装のための価値設計におけるビジネスモデルの重要性について事例をもとに理解を深める。国内外の注目されるスタートアップや大企業の新規事業等、幅広いジャンル、業態のビジネスモデルについて取り上げる。ヒト、モノ、カネ、情報の観点からビジネスモデルを分析し、ビジネスモデルを実践的な文脈の中で理解する力を習得する。

第6回 事業創造とイノベーションのための法務 (担当：寺田有美子)

7月18日(火)6限

事業創造にあたり必要不可欠な契約法理論の基礎から、イノベーションに活かされるべき法務戦略まで、法務フィールド全体を俯瞰しつつ、重要な点については深掘りして学習する。とくに、知的財産権（著作権、商標権、特許権等）に関する基本的な知識や、EC サイトリリース時に作成する規約類等については、断片的な知識に終わらないよう、事業戦略の一環としての法務マインドの獲得を目指す。また、弁護士、弁理士、税理士、司法書士といった法律実務家との協働のポイント等の実践面の知識や、起業家としての法務フィロソフィーの習得も志す。

第7回 事業創造のためのファイナンス（担当：山本一彦）

7月25日(火)5限

リスクの高い事業創造を実現するためには、そのリスクに耐えることのできるリスクキャピタルの調達が不可欠である。本講義では、ベンチャー・キャピタル（VC）から出資を受けることは銀行から融資を受けることと何が違うのか、VCはどのような点に注目して投資決定を行うのかなど、リスクキャピタルの調達に関する基礎知識を習得する。さらに、ベンチャー企業の場合、段階的投資や資金調達契約がアントレプレナー（企業家）やVCにとってなぜ重要な意味を持つのかについても学習し、事業創造のためのファイナンスについて全体的に理解することを目指す。

第8回 事業創造のための人・組織の設計（担当：上田浩史）

7月25日(火)6限

事業創造を成功する上で最も大切なことはミッション、ビジョンであり、それを実現するための組織作りであり、人材です。事業は成長しているが、組織作りや人材育成、採用がうまく行かないケースがよく起こります。どのようにすれば強い組織を創ることができるか、またどのようにすれば優秀な人材を採用することができるか。今までの関わってきたスタートアップ、ベンチャー、中小、大手企業のリアルな事例を踏まえて事業創造を成功ための人事（人材、組織）戦略のあり方、方法をお伝えします。

成績評価方法

毎回の講義での小レポートの評価 60%、期末レポートの評価 40%

毎回講義の最後に 15 分、出席を兼ねた小レポートを書いてもらいます。また、すべての講義終了後に、A4 で 2 枚の期末レポートを書いてもらいます。提出期限は 8 月中旬を予定していますが、最終講義までに受講生に案内します。

毎回の講義の小レポートの提出、期末レポートの提出は、本講義の単位認定を希望する学生のみ提出下さい。単位認定を必要としない学生は提出の必要はありません。

【講義担当講師】

忽那憲治

神戸大学大学院経営学研究科 教授

科学技術イノベーション研究科 教授(兼務)、Vスクール (兼務)

1964年愛媛県生まれ。1994年、大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程修了。博士(商学)。財団法人日本証券経済研究所研究員、大阪市立大学経済研究所専任講師、助教授を経て、2005年より神戸大学大学院経営学研究科教授。2016年より科学技術イノベーション研究科・教授、2020年よりVスクールの価値設計部門長を兼務。

専門は、アントレプレナーファイナンス、アントレプレナーシップ、イノベーション。The Journal of Finance、Journal of Financial Economics、The Review of Financial Studies、Journal of Corporate Finance、Journal of Banking and Financeなどの海外トップジャーナルに論文多数。著書に、『ケースブック 大学発ベンチャー創出のエコシステム』中央経済社(2020年)、『アトツギよ！ベンチャー型事業承継でカベを突き破れ！』中央経済社(2019年)、『地域創生イノベーション』中央経済社(2017年)、『アントレプレナーシップ入門』有斐閣(2013年)、『MBA アントレプレナーファイナンス入門』中央経済社(2013年)、『ベンチャーキャピタルによる新産業創造』中央経済社(2011年)、『中小企業が再生できる8つのノウハウ』朝日新聞出版(2010年)、『IPO市場の価格形成』中央経済社(2008年)などがある。

株式会社科学技術アントレプレナーシップの取締役(共同創業者)、株式会社イノベーション・アクセルの取締役(共同創業者)、株式会社産業革新投資機構の社外取締役を務めている。

佐藤正和

神戸大学 バリユースクール 客員教授

株式会社 アーテラ 代表取締役

株式会社 Japan&IndiaProjectDesign 代表取締役

株式会社 北印 取締役顧問(元 代表取締役)

株式会社 祇園辻利、つじりグループ ブランド顧問
株式会社 LOAD&ROAD 戦略顧問
クラファン株式会社、クラファン総研株式会社 社外取締役
アトラ株式会社（現 東証一部） 元 常勤監査役 など

これまで 24 年間で約 20 の分野で起業・事業創出とそれらに伴う売却・株式公開の経験を持つシリアルアントレプレナー。自身の起業以外では 150 年以上続く老舗企業（ファミリービジネス）から設立後数年のスタートアップまで幅広いジャンルの企業にて顧問・社外役員を務める。

専門/関心分野：イノベーション・アート思考・エフェクチュエーション等

安川幸男

合同会社 イキナセカイ代表
神戸大学 V.スクール客員教授

1970 年東京都生まれ。出版・メディア業界を経て、2001 年に株式会社 NTT データに入社。コンテンツビジネスの推進、社内ベンチャーを立ち上げに従事。2010 年に NTT 持株会社へ転籍。グループ全体の事業戦略策定、大手芸能事務所とライブビューイング事業を立ち上げる。2013 年に株式会社 NTT ドコモへ転籍。オンライン教育に関する東京大学との共同研究を実施。15 年間 NTT グループにて社内起業（イントレプレナー）、新規事業開発に従事。

2016 年に東京を離れ、鳥取へ 1 ターン移住。鳥取県庁へ入庁し、商工労働部にて起業家支援を担当。2018 年に鳥取銀行へ移り、ベンチャー型事業承継、地域創生、大学とのイノベーション人材開発に従事。今まで産・学・官・金・言すべてを経験したことから、2020 年 4 月に独立し、事業プロデュースに特化した法人を設立し、主に自治体との事業アライアンスを推進。また多拠点居住、アドレスホッパーとして新たなワークスタイルを実践中。

専門は、社内起業（イントレプレナー）、事業プロデュース、地方創生、ワークスタイル変革、ビジネスキュレーション（編集）

坂井貴行

神戸大学バリュースクール教授

神戸大学産官学連携本部副本部長（兼務）

三菱自動車工業株式会社を経て、日本の産学連携・技術移転の黎明期である1998年から立命館大学にて同業務を始める。関西 TLO 株式会社（現：株式会社 TLO 京都）・取締役、コーネル大学客員研究員、徳島大学・教授 兼 株式会社テクノネットワーク四国・代表取締役社長、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授を経て、現職。一貫して大学の科学技術の商業化によるイノベーションの創出に取り組む。博士（学術）。

これまでに 2600 件以上の大学シーズの発掘、280 件以上の特許出願、150 件以上の企業へのライセンスを行い、17 件の新規事業に成功した。政府・官公庁関連では、内閣府、経済産業省、特許庁、神戸市などにおいて、産学連携・中小企業・ベンチャー・地方創生に関する有識者委員を務める。NHK 四国羅針盤「どう育てる地方ベンチャー」、テレビ東京「ガイアの夜明け」などに出演。

熊野正樹

神戸大学 産官学連携本部 教授

V.スクール 価値設計副部門長(兼務)

1973 年富山県生まれ。同志社大学商学部卒業、同大学院商学研究科博士課程後期退学。博士（商学）。銀行、コンサルティング会社、TV番組制作会社、IT 上場ベンチャーを経て 2005 年に起業。同志社大学商学部専任講師、崇城大学総合教育センター准教授、九州大学 学術研究・産学官連携本部准教授を 歴 任。2020 年 9 月より現職。

九州大学起業部顧問、九州大学客員教授、福岡市国家戦略特区指定法人評価委員会委員長、CQ ベンチャーズ投資委員、一般社団法人 QU Ventures 代表理事。経済産業省「University Venture Grand Prix 2015」最優秀教員賞受賞。内閣府「第 2 回日本オープンイノベーション大賞」文部科学大臣賞受賞(2020)。

専門：アントレプレナーシップ

著書：『ベンチャー起業家社会の実現—起業家教育とエコシステムの構築』ナカニシヤ出版、2014年。

寺田有美子

アーカス総合法律事務所パートナー弁護士

兵庫県立北摂三田高等学校在学中1年間オーストラリアに留学し、2000年に北海道大学法学部卒業。2003年に司法試験合格後、2005年に大阪弁護士会にて弁護士登録

2015年にNPO法人フィンランド式人材育成研究所の理事就任(現任)

2017年に株式会社スマートバリュー(東証1部)の社外取締役就任(現任)

2020年に株式会社Osaka World Studioを設立し、代表取締役就任(現任)

重点取扱い分野は、法務においては、ベンチャー法務全般(各種契約書・規約類の整備、知的財産権関連、個人情報保護法関連、下請法等)に加え、コーポレートガバナンス等。司法通訳を中心にコミュニティ通訳に関する共著論文、国内外新聞への掲載歴あり。企業のダイバーシティ力の向上支援にも力点。学生起業家団体、産学共創プロジェクト等、法務を起点とした事業全般のメンタリング経験も豊富。講師・講演歴多数

2009年に米国国務省人材交流プログラム(IVLP)メンバーに選出

2013年～2014年に米国大使館等が主催する“2013 TOMODACHI MetLife Women’s Leadership Program”(女性のリーダーシップ教育プログラム)にてメンターを務める。

2014年～2020年にGlobal Venture Habitatにてベンチャーサポーターとして稼働し、多くの起業家を支援

2015年2月に米国カリフォルニア州シリコンバレーにて、起業家育成プログラムのメンターを務める。

山本一彦

神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 教授

神戸大学大学院経営学研究科 教授（兼任）

住友電気工業(株)、(株)野村総合研究所企業財務調査室等を経て、1998年に独立系ベンチャーキャピタルを創業し、代表取締役就任。創業期専門のベンチャーキャピタリストとしてベンチャー企業の投資育成に取り組む一方、企業金融の専門家としてM&A・財務戦略などのコンサルティングを提供。

2016年3月、ベンチャーキャピタルの代表取締役を退任し、同年4月、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授及び同大学大学院経営学研究科教授（兼任）に就任。同時に、神戸大学発ベンチャーの投資育成に特化したシードアクセラレータである(株)科学技術アントレプレナーシップ（STE社）を共同創業し、取締役就任（兼業、現任）。これまでに7社の神戸大学発バイオベンチャーの創業に深く関わり、現在、そのうちの1社である株式会社シンプロジェン（DNA合成ベンチャー）の代表取締役を兼業している。

一橋大学商学部経営学科卒業（1988年）

専門は、ストラテジック・アントレプレナーシップ、コーポレート・ファイナンス、アントレプレナー・ファイナンス

著書に、『MBA アントレプレナーファイナンス入門』中央経済社(2013年)、
『超入門企業価値経営～実践コーポレート・ファイナンス』中央経済社(2011年)などがある。

上田浩史

株式会社 LeaGLO 代表取締役

神戸大学客員准教授 上田浩史

立命館大学経営学部起業家養成コース卒業後、組織人事コンサルティングファーム、リンクアンドモチベーションの人事コンサルタントを経て独立。

戦略人事コンサルタントとして述べ50社ほどのスタートアップ、ベンチャー、大手、中小企業の理念策定、人事戦略、育成戦略、採用戦略をメインに支援。外部 CHRO やエンジェル投資家として6社のスタートアップに出資し、組織戦略をハンズオン支援。